

論文審査結果報告書

論文提出者氏名 久保田 潤平

学位論文題目

水分代謝不良による味覚障害患者に対する漢方薬応用の検討

審査委員 (主査) 教授 稲永 清敏 印

(副査) 教授 安細 敏弘 印

(副査) 准教授 瀬田 祐司 印

論文審査結果の要旨

本研究は、「味がおかしい」と歯科受診する患者に注目してそのリスク因子および治療方法についての検討を目的に行われた。

まず、味がおかしいと訴えた高齢者に対する自記式質問票調査により、リスク因子の検討が行われた。その結果、味がおかしいと感じることに口腔環境や食欲不振、天候の変化などが影響していることを明らかにし、水分代謝不良が関係していると推察した(久保田ら、障害者歯科、135:144-150、2014)。この結果をもとに、九州歯科大学附属病院口腔環境科において水分代謝不良と関連する味覚障害と考えられた者の割合および、そのように診断した患者に対する漢方薬応用の有用性が検討された。味覚の異常感を訴えて受診した患者のうち、受診前に他科・他院を受診し、原因の特定できない特発性味覚障害とされ治療を受けたが改善しなかった、もしくは治療方法がないとされた患者に対して、対象者の診療記録から全身状態や主訴に関する項目を抽出すると共に水分代謝改善作用を有する漢方薬の五苓散または八味地黄丸の服用による有用性の検討を行った。その結果、水分代謝不良と判断した対象者は82人中45人(54.9%)だった。服用開始6ヵ月後において自覚症状が治癒した者が21人(46.7%)、改善した者20人(44.4%)、不変だった者4人(8.9%)で、有意($p<0.01$)な改善がみられた。以上から、水分代謝不良による味覚障害に対する水分代謝改善作用を有する漢方薬応用の有用性が示唆されたとしている。

本研究は、患者に対するアンケート調査をもとにリスク因子を推測し治療に応用した点で、臨床的に有意義な論文である。公開審査に加え、審査委員会が行った質疑応答に対して、申請者から十分な回答が得られた。以上のことから、審査委員会では本研究が学位論文に十分に値すると判断した。

